



次作に向けた土壌病害対策について

こんにちは、高南農業改良普及所です。令和7年のショウガ栽培、大変お疲れ様でした。次作に向けた土壌消毒の注意点についてお知らせします。

1. ショウガ残さの除去とほ場の排水対策

前作のショウガ残さに病原菌が残っていると、次作で感染源となります。ほ場内の残さを適切に処理しましょう。どうしても植物体がほ場に残る場合は耕うんにより、腐熟促進に努めましょう。水によって感染が広がる根茎腐敗病菌や青枯病菌はほ場が浸水すると発病の危険が高まるため、排水対策をしっかりと行いましょう。

2. 健全な種根茎を確保しましょう

種塊茎は**病気の発生がなかったほ場から確保**したものを使用し、植付け前に塊茎の腐敗や表面の褐変がないか確認し、必ず病原菌に感染していないものを使用しましょう。

3. 土壌消毒を行いましょ

栽培中の主な土壌病害として、根茎腐敗病、青枯病、立枯病があります。前作にこれらの病害が発生したほ場で栽培すると発生リスクが非常に高くなります。薬剤による化学的防除と共に、**発生リスクが高いほ場には植付けない**等の耕種的防除にも取り組みましょう。

＜表の見方（例）＞前作に根茎腐敗病、センチュウの発生が少なければダゾメット粉粒剤を選択。センチュウの発生が中～多発していればソイリーンを選択

【土壌くん蒸剤選定の目安】

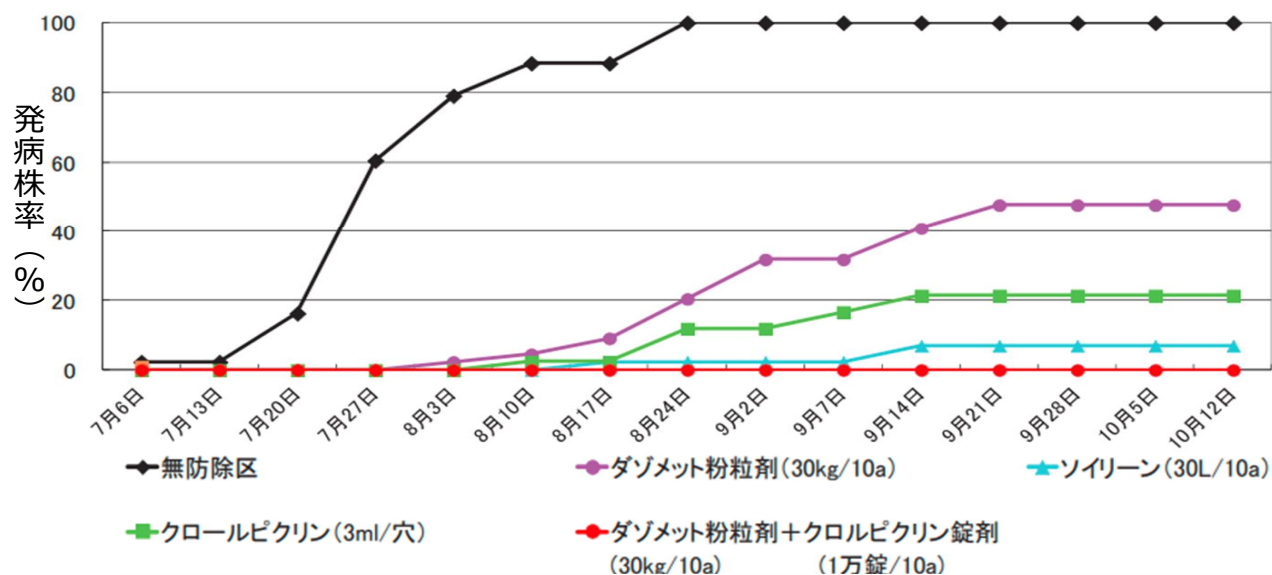
薬剤名	使用量	前年度の病害虫・雑草の発生量		
		根茎腐敗病	センチュウ	雑草
ダゾメット粉粒剤	30～60kg/10a	無～少	少	少
クロールピクリン	1穴あたり 3 ml	少	少	少
ソイリーン	30L/10a (1穴あたり 3 ml)	少～中	中～多	中～多
ダゾメット粉粒剤 + クロールピクリン錠剤	30kg/10a+1万錠/10a	中～多	少	中
ダゾメット粉粒剤 + ソイリーン	30kg/10a+30L/10a	中～多	中～多	中～多

※各薬剤の登録内容を確認のうえ使用すること

*ダゾメット粉粒剤とは、商品名がバスアミド微粒剤またはガスタード微粒剤

4. 参考データ

土壌くん蒸剤の根茎腐敗病に対する防除試験結果



【防除効果の傾向】

高：ダゾメット粉粒剤+クロールピクリン錠剤併用 > ソイリーン > クロールピクリン > ダゾメット粉粒剤：低

注) 各剤による土壌くん蒸に生育期間中の防除を実施した体系防除の結果 (2010年)

5. Q&A

Q1. 新たに農家からほ場を借りてショウガを栽培する予定ですが、土壌くん蒸剤は何を使えばよいでしょうか。

A. 以前にショウガを栽培していて、かつ根茎腐敗病が出ていたほ場であれば、根茎腐敗病に対する効果の高いくん蒸剤を選択してください。水田化だけでは、根茎腐敗病の病原菌は死滅しません。栽培したことがない、または、病気は出ていなかった場合、病気よりも雑草が問題となることが考えられます。除草効果の高いくん蒸剤を使用すると良いと思われます。

Q2. ダゾメット粉粒剤の使用量は、登録範囲の30kg~60kg/10aでは効果はかわりませんか。多い方が効果が高くなりますか。

A. 薬量が多い方が防除効果が高くなります。ただし、クロールピクリン錠剤と併用する場合は30kg/10aで十分な効果がありますので、処理量30kg/10aとしてください。なお、ダゾメット粉粒剤は土壌とよく混和することが効果を高めるコツです。トラクタ等で、2回以上耕うんして、十分混和してください。

Q3. 土壌くん蒸剤は気温によって効果に差が出ますか。

A. 土壌くん蒸剤はガス化することで効果を発揮します。気温が高い方がガス化しやすいので、効果が高くなります。寒い時期には、良く晴れた日に処理をするようにしてください。詳しくはメーカーのHP等をご確認ください。

出典：高知県の露地ショウガ産地のための脱臭化メチル栽培マニュアルより